

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990400160		
法人名	ウェルエージング株式会社		
事業所名	グループホームせせらぎ		
所在地	栃木県佐野市栃本町3270番地		
自己評価作成日	平成24年 1 月11 日	評価結果市町村受理日	平成24年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成24年 3 月 12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、屋内に閉じこもることなく外出できるよう、食材の豆腐をお向かいの豆腐屋へ買い物する等散歩に出かけ、また外食や野外レクを取り入れ地域との交流を図っています。食事やおやつも小野寺産こしひかりを始め出来るだけ地元の材料で手作りを心がけ、食事が出来るまでの音や匂いなど五感でも楽しんで頂けるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成22年5月に開所し、市北東部の閑静な住宅地と田園に囲まれたところに位置している。食事が利用者の楽しみになっていることから、小野寺産のコシヒカリなど地元の土地に馴染んでいるものを食べて欲しい方針で献立を考えている。また、家族や地域の人たちからフキノトウ、かき菜、柿などを頂き副食やおやつなどに提供している。運営推進会議は地域の役員や民生委員に交替で出席頂き、災害時の連絡網に地元の方が組み込まれているなど地域との連携が十分に図られている。また、看取り方針を既に制定しており、家族から看取りの希望が出されれば対応できる体制となっている。利用者の最期の一呼吸まで面倒をみるという姿勢で臨んでいる。運営推進会議の後、「家族交流会」を開催し家族からの要望を真摯に聞こうとしているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人個人を尊重し、オーダーメイドの介護」を基本理念とし、嬉しい時には共に喜び、不安や寂しい時には傍に寄り添う、そんな家庭的で暖かな介護が出来るよう、申し送り時に職員への声かけをして実践に向け日々努力しています。	基本理念は法人共通のもので、利用者一人ひとりに寄り添うことを表現している。管理者は職員に毎日の申し送り時などで理念の基本的な考えを伝えている。特に唱和などはしていないが、職員は日々のケアの場面で実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して町内会の行事に参加、また地域の神社の氏子として神社の行事にも参加している。お向かいの豆腐屋や商店への買い物にもご入居者と出かけ交流を図っています。	地域の福祉祭りや地元の神社の行事に参加するとともに、ホーム主催の納涼祭などに地域の方が参加している。AEDを設置して地元の人たちに利用を呼びかけたり、また、近隣の方が野菜を持ってきてくれるなどと良好な関係作りがなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学校の福祉教育における体験の場として協力、また職員が認知症サポーター養成受講し、何時でも地域の要請に対応出来るようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告や意見交換を通してサービスの向上に向け努力している。また、家族交流会の中では共に東日本大震災の復興支援を行った。(募金・被災地物産の購入)職員が現地訪問して報告もしています。	運営推進会議は併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催している。自治会や民生委員が交替で出席している。また、地元の消防署の職員が年数回参加しており、警察署職員にも今後出席をお願いする予定である。家族からは前向きな意見が多数出されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加協力を頂き、現状に対する意見や情報交換をしながら信頼関係を築いています。	市職員と地域包括支援センター職員には、運営推進会議に一年交替で参加し、介護保険等の情報を提供して貰っている。また、報告書を市へ提出する際に直接指導して貰い、市からの東日本大震災への協力要請に前向きに対応するなど関係は良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルや資料を参考に身体拘束のない介護の実践に努めています。	マニュアルは事務室に設置し職員は常時見られるようになっている。管理者は、ベッド柵の対応など具体的な事例を示して実践につながるよう指導している。また、職員の言葉遣いは、人生の先輩である利用者に対して礼を欠かないようにと注意している。玄関は自動ドアで、昼間は自由に出入りできるようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	申し送り等により、入居者様一人ひとりのその日の状態を把握し虐待防止を図り、管理者は職員の声かけ等に注意を払い言葉の暴力や虐待の防止を図っています。		

グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時の利用者紹介の時等に状況により職員への制度説明したり、御家族様には説明の他にパンフレット等もお渡しすることもあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に重要事項と契約内容について説明し、入居者様や御家族の疑問や不安についてお聞きし納得頂けるような説明をするように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し、無記名での自由意見も受けられる。ご家族の面会時には必ず出迎え挨拶と共に現況をお伝えしながら、意見や要望を伺うよう努めています。	家族会はないが、「家族交流会」を開催しその場で要望や意見を聞いている。また、家族が面会に来所した際に生活状況を報告し、家族の意見を聞いている。家族からは外出の機会を増やして欲しいなど率直な要望が出されている。	家族と職員の関係を更に密接にするためにも、今後、職員の顔写真と名前が分かる一覧表などを玄関等に掲示することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員の意見や提案を聞き、業務見直しする等、運営に反映させるよう努力しています。	管理者は、週一回のミーティングや日常のケアの場面などその都度、職員の意見を聞くようにしている。職員からは、外出の企画、おやつ調理方法、ベランダでのバーベキューなどの意見が出され管理者は前向きに取り上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者・本社・会計士・4施設長の会議を実施し、研修や公休日等の職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を基本に、職員の状況に合わせ研修を受けてもらい、また管理者は積極的に研修情報を収集し受講してもらい、報告書を提出し振り返りによる成長を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネジャー連絡会の研修等に参加、近隣施設との交流等、ネットワーク作りやサービスの質の向上に努めています。		

グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接の時に情報を収集しながら交流図り、顔馴染みの関係を築き、ご本人の思いを大切に安心してGHでの生活に移行できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談、面接時に当ホームを見学して頂き、ご家族が不安に思っている事や困っていることを伺い安心してご利用できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族とご本人の状況や思いをふまえ他のサービスや利用方法や、当ホーム利用導入方法について案を提示し選択できるよう支援します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な範囲で調理や片付け、また洗濯や掃除といった家事の協力をして頂き、お祭りや手づくりおやつ等は職員も一緒に造り楽しみながら並んで食させて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族や知人の方と心地よく会える環境を設け、受診や外出等もご本人の状況をふまえ管理者・職員が双方の意見を伺いながら、ご家族との絆を大切に保てるよう支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染みのあった方々との面会が心地よく出来る環境を心がけています。行きつけだった病院・店・美容室などの利用も積極的に支援しています。	地域の初午や近隣の太平山など馴染みの場所へ、家族が連れて行くことが多い。また、訪問理美容が月1回あり最近はこちらを利用する利用者が多くなっている。男性はヘアクリームを求め、女性はエステやマニキュアをするなど新たな馴染みの関係が出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いの部屋に行き来したり、リビングで皆さんと過ごされる時間が大半です。ADL的に他の方のお世話が出来る方については職員が安全を見守り支え合いを支援しています。		

グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への異動終了時等は皆さんからの寄せ書き等で見送り何時でも着て頂ける様声掛けしています。亡くなられた場合は葬儀等に参列、また新盆には社長と共に参る。神棚には名簿として祀り日々手を合わせています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中、本人の言葉を傾聴することで意向をくみ取り支援に努めています。	職員のふれあいにより一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。自分から思いを話さない利用者には、入浴や部屋にいるときなど職員と1対1になった機会に話して貰えるようにしている。その結果について職員間で共有するよう申し送りを確実にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	起床や食事時間等は出来るだけご本人の生活習慣にあわせるようにします。レクは自由参加とし、ご本人の趣味活動継続に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送り時等に状態変化の把握に努め、それぞれの生活リズムで過ごせるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りやミーティング等で職員の意見を聞くと共に家族の面会時などに意見や要望を伺い介護内容に反映させています。	入居前の生活状況を家族からよく聞いて、それを介護計画に反映するようにしている。また、入居後、一人ひとりの日々の生活状態を把握し、職員からも状況を聞き、変化がある場合は、家族の意見・要望も聞いて速やかに介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや伝達ノートを活用し入居者様の現状を把握するよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院が必要となっても家族が来られない状況や、認知症の為職員の顔を忘れないように面会に行き洗濯物の交換や交流をしている。		

グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に積極的に参加したり、1人ひとりの家庭の行事(法事等)にも参加できるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は職員が同行して主治医に報告・相談している。家族が行く場合は普段の様子などを記録した物をお渡しして診察の参考にして頂いている。	これまでのかかりつけ医を継続する利用者が多い。家族が同行する場合は、日常生活状況をメモして渡している。また、職員が同行する場合は体調の変化等を医師に報告して適切な医療が受けられるよう支援している。内服薬の準備は職員が十分に注意して行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化等を看護師に報告し、看護師が対応し必要であれば主治医に連絡を取り適切な受診が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院の看護師・相談員とサマリーの交換や面談により連携を図る。また入院中も面会に行き看護スタッフとの情報交換する等、入退院がスムーズに出来るよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームでの看取りを希望され「看取りの指針」をご理解・同意を頂いた方には主治医を始めとする医療スタッフと連携を図り支援に取り組んでいます。	法人として、平成22年9月1日に「看取り指針」を制定し家族から要望がある場合は対応している。その場合、家族からは同意書を頂いている。また、かかりつけ医とも良く相談するなど医師との連携を十分に図れるようにしている。管理者の思いも職員に理解されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED設置に伴う講習や、普通救命講習を定期的に受講し、救命に必要な応急手当を身につけるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間も想定した訓練と、契約消防商會に依頼し消火器使用訓練も実施している。また、警備会社との連携も行っている。	年2回のうち1回は夜間想定訓練で、地元の消防署の指導を得ている。また、届出以外の日にも職員は避難の練習をしている。災害時の連絡網には地元住民2人に入って貰うなど地域との協力関係ができています。また、契約会社から消火器等の使用方法を指導して貰っている。水や食料の備蓄にも配慮している。	火災や災害への備えを更に充実する意味からも、今後、ミーティングなどの機会に職員同士で非常用機器の使用方法を再確認するなどを行うことに期待したい。

グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの状態を理解し、入居者様の声を否定せず傾聴・声かけを心がけ、排泄等の失敗体験をさせない為にも他の入居者様に気付かれないようなさり気ない排泄誘導に努めている。	人生の先輩として敬意を表する意味からも、「さん」づけで呼んでいる。排泄を促す場合は、さりげない言葉を使うなどの配慮をしている。各部屋の入り口の表示は、事前に家族の希望と確認で了解のもと、名前を表示する利用者が多い。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う時には本人に説明し、意思確認をしながら支援しています。(レクや散歩等の参加含)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ自分のペースで生活して頂けるように就寝・起床・朝食時間等も柔軟な支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1/月の出張理美容を利用したり、希望により外出時に化粧のお手伝いをします。また、希望でマニキュアの支援等もします。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元の食材等を取り入れた家庭的な食事を心がけ台所には自由に入出りでき、その方の状態に応じて準備や片付けを行っています。入居者様の家族に頂いた野菜は直に調理するようにしています。	食材を購入している店の栄養士に献立作成を依頼している。調理は隣接の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で手分けして行っている。利用者からは漬物などの漬けたを教えてもらうこともある。また、外食は2か月に1回は行い、ホーム内で「寿司パーティ」などを行うこともある。家族から野菜の差し入れなども時々あり活用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後に摂取量の記録を行い摂取状況の把握に努め、また小まめに水分を摂って頂けるよう飲水を始めコーヒ・日本茶他用意し、気分や好みで水分補給できるよう工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状況に合わせ嗽や歯磨きの支援をし、職員は確認表にチェックしています。		

グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日誌に排泄状況を記録することで排泄パターンを把握し、出来るだけ失敗体験をしない様にトイレ誘導を心がけています。	職員は排泄パターンを把握し、日中は食事やおヤツの前に声掛けをしている。夜は時間を決めて声かけをする人やベッドなどで動き始める利用者など一人ひとりによって状態が異なるので随時対応している。日中リハビリパンツで夜間はテープ式オムツを利用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩で身体を動かすようにしたり、朝は牛乳や飲むヨーグルト、また食事やおやつに芋、バナナやかんてん等を取り入れ水分補給と共に支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴を実施し、その方のタイミングを図り入浴して頂いたり、希望を取り入れている。入浴剤も多種取り揃え香りや色を楽しんで頂いています。	毎日の入浴を原則としている。拒否をされる利用者には無理をせず清拭や着替えだけの場合もある。また、隣接の小規模多機能型居宅介護事業所には温泉のヒノキ風呂があり週一回の利用支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々気分や体調で休息できるよう支援している。眠れない時等は会話や趣味活動またお好きな飲み物等を提供し心地よく眠りを誘えるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬説明書をファイルしてあり確認できるようにしている。職員が内服確認表を作成しチェックしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除洗濯や食事の片付け等、無理なくできる事を支援したり音楽や手芸などお好き事が出来るよう支援しています。場合によっては飲酒の相談も受けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調をみながら近隣への散歩やお向かいの豆腐屋さんへの買い物をしたり、このところ受診介助が多く回数が減り平均で1回/月くらいですが野外レクも支援しています。	天候が良好な日には近隣へ散歩に出たり、ペランダでシャボン玉を楽しんでいる。2か月に1回は市内の道の駅や大型スーパーなどに食事に出かけている。また、隣接の小規模多機能と合同で月1回の誕生会を開催し利用者にとって気分転換できる支援にもなっている。	

グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理希望されている方は小額を所持され管理している。殆どの方はご家族より小口現金を預かり、外出時等に自分で買う楽しみを感じて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は取り次ぎの形になってしまいますが状況を見ながら自由に、また手紙などの郵便物も出し入れも自由にできるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出入り口でお香を焚いたり、リビングは皆さんが思い思いに過ごせる空間を用意し、調理に参加したり出来るまでの音や匂いを感じられるように努めています。	玄関でお香を炊いて、利用者や職員の気持ちが穏やかになるように配慮している。白い壁面でカレンダーや行事の写真等は抑え気味となっている。臭いや音もなく中庭からの採光も適度な明るさで快適な雰囲気となっている。利用者は日中リビングの椅子で談笑したりに、共有空間の片隅にある畳の間に腰かけたりして居心地良く過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のリビングからはベランダから中庭への出入りでき、また畳スペースや、台所にも椅子を置き思い思いに過ごせる空間作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は消防法により防災カーテンとし、清潔の為に洗面台・エアコンの外は入居者様の馴染みのある家具や生活用品を持って来て頂いています。	洗面台、エアコン、カーテン(難燃性)はホームの備え付けである。ベッド、タンスなどは馴染みのものを持ち込んだり、レンタルで対応している。また、テレビを置いたり家族の写真などを貼って家にいた時と同じように居心地よく過ごす工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合った福祉用具の活用や、トイレ・風呂場・廊下などには手すりを設置して安全に配慮しています。		